

大堀切（堀切、石垣の積み方）

大堀切

大堀切は、鐘の丸と太鼓丸の堤防を隔てる巨大な溝である。溝には落とし橋が架かっており、城が攻撃を受けたときにはこの橋を壊し、落下させることによって8メートルの溝を作り、敵が渡れないようにすることができた。城に突入すると、攻撃者は大堀切で立ち止まらざるをえなくなり、三階建ての天秤櫓の狭間から矢と火縄銃の攻撃にさらされた。日本の城は多くの場合、盛り上がった土手の高台の上に建てられるが、大堀切と落とし橋の組み合わせは非常にまれである。同様の土木構造は、西の丸と出廓の間にもある。

天秤櫓（重要文化財）

この櫓は、太鼓丸と本丸を守る櫓で、「天秤櫓」と呼ばれ、その形が「両端に荷物を下げた天秤」に似て左右対称の構造からこの名がある。この櫓の美しい造形は、現存する日本の城の中でもユニークなものであるが、彦根城の天秤櫓はかつて、琵琶湖の東岸からそう遠くない場所にある長浜城の正門だったと考えられている。長浜城は、幕府による一国一城令により、17世紀初頭に解体された。